

梅原の子

Umehara Elementary School
梅原小学校 学校だより
令和6年7月19日号

やってみる・見てみる、そして、感じてみる・考えてみる

校長 埴岡 靖司

1階の廊下には、まち探検で発見したことが、掲示してあります。2階の教室には、森と川の学校で発見したこと、田植えで発見したこと、学校内で発見したこと、見学で発見したこと、「やってみたこと」が、言葉として表されています。4月からこれまで、様々な体験を通して学んできたことがわかります。

私の好きな言葉に「フィールドワーク」があります。フィールドワークを通して、本物を見る、その場の空気感を感じることで得られるものを大事にしてきました。一言で言うと、「体験」です。そして、体験したことをもとに、本で調べたり(ライブラリーワーク)、実験・観察をしたり(ラボラトリーワーク)して知識や技能、そして、創造する力や考える力をつけてきました。そして、仲間との意見交流を大事にしてきました。

みなさんの1学期の学びは、まさにフィールドワークでした。実際に体験することで感じたこと、考えたことの積み重ねが、とても大事だと考えています。漢字や計算、運動のように、すぐに正解や記録として現れる成果があります。実際の体験は、このように正解の数や記録になって現れないものがあります。みなさんの心の奥底に静かにひそんでいるかもしれません。そして、あるときに一気に花開く場面があるでしょう。だからこそ、「やってみる・見てみる」を大事にしてほしいと考えてきました。そして、1学期は、たくさんの体験を、地域の方々と行うことができました。これが、みなさんの「宝物=強み」です。この宝物としての体験が、2学期に大きく花開くことを楽しみにしています。

さて、明日から夏休みです。ここ数年の夏の暑さは、異常と思えるほどです。また、感染症のリスクが低くなり、様々な活動が活発になってきました。まずは、命を落とさないように、交通事故等には気をつけてください。そして、家庭でたくさんの体験をしてください。

いじめを考える日

6月28日(金)に、「いじめについて考える日」を行いました。6年生のみなさんが、「いじめって、どのような姿なのか。」を、真剣に考えて、提案してくれました。人は、心の弱い生き物と言われます。「見た目」「声」「行動」など、ある一面だけで「強そう」「弱そう」と相手の様子を見て決めます。そして、「私は強いぞ!」と振る舞うでしょう。その姿が、いじめかもしれないと、みなさんは示してくれました。そこで、「いじめではない、というのはどのような姿なのでしょう。」と問いかけました。梅原小学校のみなさんは、「いじめでない姿」として、「優しい姿」と話してくれました。とても心に響きました。そこで、『バスが来ましたよ』(文: 由美村 嬉々 絵: 松本 春野 出版社: アリス館)を読みました。

「バスが来ましたよ。」話したことがない方に、みなさんは声をかけられますか。そして、声をかけた人のまねができますか。同じバスで通う主人公のさきちゃんのすてきな行動。そして、その行動をみて、さきちゃんの妹やその他の子に引き継がれました。全盲の山崎さんに対して、みんなが優しさの「当事者」でした。きっと、同じバスに乗っていたすべての人も、優しい心の「当事者」だったと思います。こんなふうに、誰もが優しい心、あたたかい心をもっていたなら、悲しい争いや戦争が世の中からなくなると思いました。だれもが優しいとうれしい。梅原小学校も、そのような場所だとうれしいと思う「いじめを考える日」でした。

